

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	清田リハビリセンター		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境支援体制においては、清潔で心地よく過ごせる環境、児童の活動に合わせた空間、工夫・取り組み: 毎日の掃除・消毒、児童の特性に合わせた配置をしている。	児童の特性に合わせて配置を決めている。毎日の掃除・消毒を徹底し、衛生的な環境を維持。換気の実施により、新鮮な空気を保つ。児童が自ら整理整頓しやすい環境づくりを推進。	発達支援スペースの適切な配置が必要である。児童の状況に応じた職員の配置が求められる。遊びや学習に適したゾーニングを実施、児童の特性に合わせた机・椅子の配置。落ち着いて過ごせるリラクゼーションスペースの確保の改善を図る。
2	適切な支援の提供では、適切に支援プログラムが作成、公表している。個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している活動プログラムが固定化しないよう工夫している。日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	保護者面談やセラピストとの支援計画の情報を職員と共有している。活動プログラムにおいては、長期休みにおいては、各部署からのアイデアをもらい楽しんでもらえる工夫をしている	放課後等デイサービス計画を作成においては、まだまだ改善すべき点はあるが情報共有はできるようになってきている。
3	保護者への説明などは「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ている。家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている。	保護者の悩みや不安に寄り添い、具体的な助言を提供。必要に応じて専門機関と連携し、適切な支援につなげる。保護者に「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容を具体的に説明。子どもの特性や成長段階を考慮し、分かりやすい言葉で伝えるよう工夫している。連絡ノートやアプリを活用し、日々の様子や支援内容をリアルタイムで共有している。	支援内容について、定期的に保護者の意見を聞き、改善につなげる。保護者アンケートや個別面談を活用し、より良い支援を目指す。連絡ノートやアプリを活用し、日々の様子や支援内容をリアルタイムで共有し必要に応じて、写真や動画を活用し、具体的な活動内容を伝える。研修会や勉強会を定期的に開催し、スタッフの専門性を向上を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	限られたスペースの中で声をかけ合い上手に使用することができている。静かにいたい児童のスペースが不十分と考えられる。長期休み時、時々不足する場面がある。今後改善が必要。休憩時間の確保が難しいときがある。	特性によって分けることができないため改善が必要。児童対応以外の業務がその分、疎かになってしまうと考えられるため改善が必要
2	非常時の対応において事業所では、災害時に供え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われているが、改善が必要である。	定期的な避難訓練の見直し、救出方法の再確認をする。新しくご利用様が入所された時の緊急連絡先の更新、災害時の情報伝達手段(LINE、メール、災害用伝言板など)を複数用意する。災害時の災害グッズの見直しをしていく。業務が忙しく、訓練に参加できない職員がいる。	訓練は定期的に行ってはいるが、保護者様への訓練の告知や訓練後の報告の仕方を考える。訓練の頻度が少なく、従業員が手順を忘れてしまう。施設・設備の問題 避難経路の確保の改善をする。 災害時の連絡手段が限られており、迅速に全員へ情報を伝えられない。連絡網の更新がされておらず、訓練の頻度を増やし、全員が参加しやすい日程を設定する。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。(自立支援)協議会等へ積極的に参加できていない。	施設間のスケジュール調整が難しく、交流の機会が限られることがある。今後の改善策: 事前に年間計画を立て、各施設と協力しながら無理のない範囲で交流を増やしていく。	定期的に協議会へ参加し、地域の支援機関との連携を図っていく。課題: 参加者が限られているため、より多くのスタッフが協議会の内容を共有できるよう工夫が必要。今後の改善策: 参加報告をまとめて職員間で共有し、具体的な支援計画に活かせるようにする。